

SDGs 未来都市計画案の概要について

企画部政策企画課

未来都市計画（全体計画）について①

1. 全体計画	(内容)
1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態	地域特性（※）や今後取り組む課題等について ※地理的条件、人口動態、産業構造、地域資源等
(2) 2030年のあるべき姿	持続可能なまちの姿について ※都市構造や市民生活、経済・社会・環境面、制度等を踏まえて記載
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット	各ゴール、ターゲット及びKPI について ※KPIは2030年度を目安とする。
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組	未来都市選定年度から3年間で先導的に進める取組について ※各取組に関連するゴール、ターゲット及びKPIも記載。
(2) 情報発信	域内向け、域外向け、海外向けの3分類の情報発信について
(3) 全体計画の普及展開性	類似の背景、課題、資源を持つ地域への展開策について
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映	総合計画、地方版総合戦略、環境基本計画、その他の各種計画へのSDGsの反映状況及び反映予定について
(2) 行政体内部の執行体制	自治体SDGsの推進のための行政体内部の執行体制や首長の役割・リーダーシップ等について
(3) ステークホルダーとの連携	ステークホルダーとの連携及び連携によるメリットについて ※域内外の主体、国内の自治体、海外の主体に分けて記載
(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	SDGsに積極的に取り組む地域事業者等と連携し、自律的好循環の形成へ向けた登録や認証の制度の構築といった取組等について
4 地方創生・地域活性化への貢献	取り組む課題の解決への貢献、SDGsの取組が与える地方創生、地域活性化への影響

2023年度SDGs未来都市全体計画概要

全体計画の概要

若い世代の転出超過を改善するため、JR加古川駅周辺から加古川河川敷までのエリアを活用し、子育て世代が集まり、自然を身近に感じながら、自分らしく過ごすことができる都市空間を形成する。さらに、エリアの回遊性を高めることで、人の往来を生み出し、ひと・まち・自然が一体となった、持続可能なまちを実現する。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「加古川」を中心に、自然と都市が調和した大都市近郊のベッドタウン。 ➢ 0～4歳及び20～44歳が転出超過の約90%を占める。 ➢ 定住人口増には「駅前のにぎわい」と「余暇を楽しむ場所」の創出が課題。 	<p style="text-align: center;">自然と都市の調和が生み出す Liveable Well-Being City 加古川</p> <p>【経済】誰もが活躍し、にぎわいを感じられるまち 【社会】安全・安心に暮らすことができるまち 【環境】カーボンニュートラルの達成により環境と共生できるまち</p>	
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	<p>【経済】中心市街地のウォークアブル空間の形成、理想の働き方が実現する社会の構築</p> <p>【社会】地域ぐるみの子育て応援、デジタル技術を活用した防犯・交通安全対策、防災基盤の整備</p> <p>【環境】脱炭素ライフスタイルへの転換促進、ごみの資源化の推進、生物多様性の保全</p>	
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	<p>【経済】市のポテンシャルを引き出し、人や企業が輝き、躍動するまちづくり</p> <p>【社会】子どもや高齢者をはじめ、全ての人々が安全安心に暮らせるまちづくり</p> <p>【環境】カーボンニュートラルの達成に向けて地域総がかりで取り組むまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ オープンミーティングや広報紙、SNS等を活用した、戦略的な情報発信 ➢ 市SDGsオリジナルロゴマークを通じ、事業者の主体的な活動の後押しや、ロゴを見た人に対するSDGsを意識した行動の意識付け ➢ シティプロモーションサポート企業との連携 ➢ 公共施設等でのSDGs関連取組の掲示・周知 ➢ SDGsプラットフォームの活用 	<p>「心の豊かさ」や「QOLの向上」と繋がる未来都市の姿やWell-Beingの向上を目指す本市の取組は全国の自治体が参考にしやすく、具体的な取組はLiveable Well-Being City 指標を踏まえたもので、先駆的な事例として参考になる。</p> <p>さらに、駅周辺の中心市街地と河川敷が近接する地域特性を活用したまちづくりは、地域特性が類似する自治体においては特に参考になる。</p>
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加古川市総合計画 2. 第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 3. 第3次加古川市環境基本計画 4. 加古川市多文化共生社会推進指針 5. 第5次加古川市男女共同参画行動計画 6. その他の分野別計画 	<p style="text-align: center;">「加古川市まち・ひと・しごと創生本部会議」</p> <p>(構成) 本部長: 加古川市長、構成員: 全部局長 (内容) 全庁的なSDGsの推進に向けた意思決定や、進捗状況についての評価を行う (その他) 外部有識者で構成する「加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議」と連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市民、地域コミュニティ団体、市民活動団体、市SDGsオリジナルロゴマークを活用する事業者など様々な主体と行政が強みと弱みを捉えつつ役割分担し、連携して課題に取り組む。 ➢ 広域連携都市やSDGsプラットフォームのネットワークを活用し、他自治体との連携を図る。
	自律的好循環の形成に向けた制度の構築等	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 三井住友海上火災保険株式会社 (SDGsの連携に関する協定締結事業者) との連携による、市SDGsオリジナルロゴマークの活用届出制度を昇華するかたちでの地方創生SDGs登録制度を構築 ➢ エビデンスを基とした事業評価、効果検証を実施し、課題の把握と分析に注力しながら、事業を推進 	

未来都市計画（特に注力する先導的取組）について

2. 特に注力する先導的取組	(内容)
(1) 課題・目標設定と取組の概要	特に注力する先導的取組名、課題・目標設定及びその取組の概要について ※目標設定ではSDGsのゴール、ターゲットについても記載
(2) 三側面の取組 ①経済面の取組 ②社会面の取組 ③環境面の取組	経済・社会・環境面のそれぞれの取組概要と、KPI、関連するゴール、ターゲットを記載
(3) 三側面をつなぐ統合的取組	
(3-1) 統合的取組の事業名	三側面をつなぐ統合的取組の事業名、取組概要及び統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫について
(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等 (新たに創出される価値)	三側面をつなぐ統合的取組によりもたらされる相乗効果等について ※三側面相互の内容について、KPI及びその概要を記載
(4) 多様なステークホルダーとの連携	連携する団体・組織名と、特に注力する先導的取組における位置付け・役割について
(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施	モデル事業の事業スキームの概要、事業スキーム図について
(6) 特に注力する先導的取組の普及展開性	類似の背景、課題、資源を持つ地域への展開策について ※取組体制、取組方法及び取組内容等を記載
(7) スケジュール	モデル事業（三側面の取組及び統合的取組）のスケジュールについて

特に注力する先導的取組概要

特に注力する先導的取組名

「水辺×駅周辺」が人をつなぐ 職・住・憩まるごと創造プロジェクト

取組内容の概要: 20~44歳とその子どもたちの定住を促進するため、加古川河川敷から加古川駅周辺までのエリアにおいて、子育て世代を中心に心地よく過ごせるサードプレイスを創造する。また、当エリアを拠点に地域資源やデジタル技術を活用しつつ、三側面の取組を一体的に展開することで、職・住・憩が充実した持続可能なまちを実現する。

